



刊行のことば

二松學舎大學大学院文学研究科教授

竹野 静雄

昭和前期は空前の西鶴復興の季節であった。学界・教育界・出版界と文壇が相呼応して盛り立てたところにその特色がある。それは西鶴の大衆化を鋭く印象づける事象でもあった。

学界では、藤井乙男・藤村作・山口剛・片岡良一ら大正期以来の研究に加えて、佐藤鶴吉らの注釈学的研究や頼原退蔵・野間光辰らの文献学・考証学的研究、瀧田貞治らの書誌学的研究、暉峻康隆らの文芸学的研究、近藤忠義らの歴史社会学的研究などが相次ぐ。やがてそれらは、西鶴学会による総合的な『西鶴研究』誌に結集する。東西の西鶴輪講会がはじまり、主要一三作品に亘って「一言半句」式の注釈が施される。折からあまたの翻刻・注釈・評釈書が揃化する。日本名著全集と評釈江戸文学叢書の『西鶴名作集』は、その代表的なものである。他方、『稀書複製会叢書』や『近世文芸名著標本集』など原本の複製・紹介も継起する。伝記資料の『見聞談叢』はじめ、『生玉万句』『俳諧胴骨』『独吟百韻自註絵巻』『十二ヶ月句巻』など新資料もまた続々紹介される。各種異版本の比較研究も行われ、のちの『定本西鶴全集』に向けて長足の進歩を見せる。

浮世草子・浄瑠璃・俳書・短冊その他関連書目を一堂に集めた「西鶴記念展覧会」が東西で開かれ、『帝劇』はじめ『上方』『月刊日本文学』『古典研究』『俳句研究』『解釈と鑑賞』等が度々「西鶴記念特集号」を組む。一方で主要作品の文庫本化がはじまり、岩波文庫と改造文庫で計一部刊行を見る。また、中等学校の国文教科書に『日本永代蔵』や『世間胸算用』が加えられて、西鶴の名は勢い国民的となる。

文壇では昭和初年、佐藤春夫のサロンが『好色一代男』と『好色五人女』の合評会をもつ。その佐藤をはじめ、里見弴・菊池寛・志賀直哉・吉井勇らによって、全一〇巻・二〇作品から成る「現代語西鶴全集」の刊行を見る。彼らは進んで西鶴撰取作を書き、新世代作家の西鶴受容を誘発する。なかで最も根深く切り結んだのが武田麟太郎・織田作之助、次いで太宰治・尾崎一雄である。集団描写の技法や笑いの精神が彼らによって初めて甦える。武者小路実篤・藤野莊三（山岡莊八）らの伝記小説が登場したのもこの時期である。一方、『人民文庫』と『文学界』もまた西鶴特集を組む。わけて前者の武田麟太郎・宇野浩二らの言説は、いわゆる散文精神と西鶴を切り結ぶなど、内発的要求に深く負っている。

西鶴の復興と大衆化とは、およそこのようなものであった。

明治・大正期に続き、今回もまた未見資料の掘り起こしを通じて、先行研究を大幅に増補・修正することができた。けれども資料には、ゼンたい劣化やしみ・汚れ等があつて、鮮明な版面を提供するのは必ずしも容易でなかった。不備はあるにしても、ひとまずこのパノラマ化によって、進歩発展の様相が可視化されるなら、せめてもの幸いである。

井原西鶴は平山藤五か

藤村 作

今年春の頃と云ぼえてゐる、友人笹影堅君が訪れられて、井原西鶴の實名は既に世に知られてゐるか
と問はれた。余は嘗て聞いたことはないと答へるとそれではまだ多く世に知られてゐないであらうとい
つて、日本藝林叢書第八卷見聞談叢の一節を示された。余は一讀して、その注意すべき珍しい新資料で
あると考へたから、君に進んで考證研究をなして世に發表されんことを請うたが、謙遜な君は然るべく
と發表のことを余に譲られた。爾來閑を得て研究して見ようと考へながら、空しく半歳餘を過してしま
つた。こゝに本誌が新資料の研究號を出すに當つて、一先づ筆を執つて單に學界に報告することとした。
報告するといつても、日本藝林叢書は今日新に活字に組まれて世に出された書であるから、同叢書の
編者出版者が、今日の學界に發表してゐられる筈で、今更發表呼ばはりをすべき筋ではないが、爾來國
文學界にこれに關する論議研究の示されたものもなく、又同學者中の噂に上るのをすら聞かないから、
こゝにこの機を以て本誌に依つて學問の爲に世の學者の注意を新にしようと思ふのである。敢へて新發
見の名譽を私しようなどといふ汚い心のあるものではない。

井原西鶴は平山藤五か

二八七

昭和17年6月5日

「天下の町人考」(中村)



「天下の町人」考

中村 幸彦

昭和4年1月1日

一時唯物史觀的な考へが、思想界に靡漫して、文學も古典も悉くが、これを以つて解釋された頃、社會史上、時は
丁度近世商業資本主義誕生の時町人勃興期、人はその商都の町人にして、明治以前の日本には珍らしく金をテーマと
した人、その故に最も注目された作家が西鶴であつた。そして西鶴の階級意識の象徴でもある様に、天下の町人の話
が作品中から取出され、この語は經濟的實權を握り得た町人の代辯者が、彼等のかちどきと誇りを單的に現した言葉
づかひと、疑ふ餘地もなく解釋された。その傾向が思想界から霧散した後といへども、この言葉のみは以前の鋭さは
ない迄も、なほ町人の實力誇示の巧みな表現として、論者は好んで、さうした意味で使用して居る。さう云ふ風に解
すると、士農工商、嚴存した身分制度下に、絶対に士分の下に立つべき運命の町人、それも西鶴の用例に倣するに、
時に士分識者からは汚らはしくも扱はれた商人を指して居るのであるが、この最下位の身分に甘じねばならぬ商人町

西鶴研究資料集成 昭和前期篇 全12巻補巻1

明治・大正篇補遺

〔明治篇〕

〔江戸時代戯曲小説通史〕(抄)
西鶴の俳諧
作中に現れたる女性
東鶴西鶴南馬北馬
薛絵師源三郎の絵

〔名文評釈〕あるかなきかのとけ
鶴の字画禁止令
蓮華女(大阪の売淫下女)
西鶴の五人女に就て

西鶴の墓改葬
寵姫と狐舞
〔浪華名家墓所記〕
〔筆禍史〕

西鶴の女
西鶴と浮世絵
好色一代若衆
西鶴の輪郭
吉田半兵衛の絵本

大徳本の売仙 好色本(明治三十八年)
〔大正篇〕
風呂屋者
吉原の俄狂言

西鶴の世の中と「五人女」の誇張
〔俳優影鑑〕初巻
梶久一世物語解題
新小夜風解題

〔五人女〕はしがき
〔文学に現はれたる我が国民思想の研究 三〕
るはらさいかく(井原西鶴)
〔大阪金石史〕

西鶴の女
凱陣八島
西鶴と山太郎
西鶴全集の刊行に就いて・伊原西鶴略伝・西鶴全集目次

〔日本永代蔵〕(改造文庫) 解説
〔概説日本文学史潮〕
〔江戸時代の男女関係 〕(抄)
俳人西鶴提唱

西鶴の俳優補訂
〔俳諧朋ほね〕解説
〔五人女 〕
〔談林俳諧集 〕
勝峰晋風解題・荻原井泉水通説
伊藤松宇解題

〔昭和2年〕
金の文学者西鶴
おさん茂兵衛物語
西鶴近文学に現はれたる性欲

西鶴松片の「井原西鶴」
〔近世国文学序説 〕(抄)
〔西鶴好色物全釈 〕(抄)
西鶴の眼に映じた夕霧並に其姿絵

浮世草子の本質
一步の数
疑問の惣嫁
〔好色一代男〕の流れ

西鶴断片
西鶴全集「正編・巻一」(抄)
〔好色一代男〕おぼえがき

石垣町と「いわらじ」
西鶴の一代女「学界余談」
〔金〕を描いた西鶴(一)(二)(三)
〔好色一代男 〕(岩波文庫) はしがき

〔好色五人女 〕(岩波文庫) はしがき
〔好色一代女 〕(岩波文庫) はしがき
友禅扇
西鶴対問
〔自己中心 明治文壇史 〕(抄)

〔西鶴全集 好色本〕はしがき
〔層〕解題
〔昭和3年〕
井原西鶴

〔日本永代蔵 〕(岩波文庫) はしがき
〔世間胸算用 〕(岩波文庫) はしがき
〔新吉原常々草 〕に就て

〔西鶴〕にあらはれたる美人の諸相
西鶴本に見えた上村吉弥
西鶴町人物に現れたる「才覚」の研究

世之介の懺悔
食味随筆 西鶴と食味
西鶴研究一覽
〔西鶴五人女詳解〕と「層」

西鶴の俳句
西鶴署名と印譜
西鶴と知足
西鶴と因縁観(好色物より)

俳人としての井原西鶴
―その二百五十年を機として―
西鶴自筆自註独吟百韵解題
〔松寿軒西鶴独吟百韻〕解題

〔俳諧史の研究 〕(抄)
浮世草紙のあらはれたる時代
西鶴と歌―主として「目玉鍊」の歌について―

江戸時代の小説概観(抄)
貞徳と西鶴
西鶴流行
俳諧無駄言 西鶴の孫東鶴

お夏清十郎の文学と実説
西鶴の好色物と町人物
西鶴の用字について(真山青果氏に酬ゆ)

〔新刊紹介〕西鶴・成美・一茶
〔西鶴・成美・一茶〕について
〔江戸文学叢説〕を読む
津田左右吉

〔昭和7年〕
〔五人女 〕覚書
難波の貌は伊勢の白粉
西鶴五人女―舞踊曲として―

近松と西鶴
〔西鶴文撰集〕はしがき・序文
西鶴の梅屋
日本小説の展開 現代謡歌の時代(浮世草子)

浪花詞娘志
西鶴と階級思想
〔武道伝來記 〕(岩波文庫) はしがき

〔日本文学書目解説 〕上方・江戸時代(上)
西鶴庵・七部集の書目・その他
〔高名集 〕解説

〔浮世草子 〕
〔西鶴諸国咄・本朝陰謀比事 〕(岩波文庫) はしがき
〔昭和8年〕
鶏助録一西鶴と河豚

〔井原西鶴 〕
戯曲小説 近世作家大観 第一巻
西鶴の武家物について

〔好色一代男 〕解釈難
〔新刊紹介〕西鶴織留新註
松浦一六氏著
〔甘露堂文庫 稀観本放覧 〕

浮世草子―その伝奇的傾向の展開
〔新刊紹介〕松浦一六君著「西鶴織留新註」
〔近世文芸 名著標本集 〕

〔層 〕の因み
談林俳諧法式の一資料
古小説の話

〔俳諧史の研究 〕を読む
西鶴の墓に就いて
西鶴雑記
西鶴と伏見の里

町人物に現はれた伏見の里に就いて
〔近世国文学考説 〕
西鶴と「諸国咄」

石田 元季
江馬 務
塚本 橋良
野間 光辰

笹谷 良造
林 春隆
野間 光辰
野間 生

石田 元季
樋口 功
長谷川信好
藤井 乙男

堀江 秀雄
大西 一外
荒木 良雄
藤井 乙男

佐藤 鶴吉
野間 退蔵
横山新十郎
小柴 値一

重友 毅
野間 退蔵
山崎 麓
山崎 麓

鈴木 敏也
平井 蒼太
小柴 値一
野間 光辰

藤村 作
城戸甚次郎
藤村 規
藤井 紫影

重友 毅
野間 退蔵
小林 静雄
野間 光辰

和田 万吉
加藤 武雄
松浦 一六
高藤 順三

高木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

和木 蒼梧
山崎 麓
高木 蒼梧
山崎 麓

勝山 澄心
熊谷 孝
佐藤 鶴吉
林 美美子

清水 悟郎
小野 晋
武田麟太郎
次田 潤

頼 桃三郎
田村栄太郎
熊谷 孝
若沢 誠

野間 光辰
藤井 乙男
藤田徳太郎
高津 久基

西角井正慶
加藤 順三
野間 光辰
座間 太郎

徳田秋声ほか
小柴 値一
江馬 務
塚田 三樹

積 退空
小柴 値一
守随 憲治
大敷 虎亮

野間 光辰
山崎 麓
真山 青果
藤村作・近藤忠義

熊谷 孝
守随 憲治
田村栄太郎
田村栄太郎

大敷 虎亮
勝山 澄心
鶴谷 孝
山本善太郎

野間 光辰
山本善太郎
伊藤 正雄
島津久基ほか

笹川 臨風
山本善太郎
野間 光辰
鶴見 誠

熊谷 孝
橋本 実
駒井 蒼生
編輯局編

守随 憲治
近松 秋江
小田 義人
古沢 元

洪川 元
瀧田 貞治
近藤 忠義
野間 光辰

武田麟太郎
坂元 敬介
宇野浩二ほか
島田 筑波

野間 光辰
武田麟太郎
坂元 敬介
宇野浩二ほか

近藤 忠義
姉川柳太郎
菊池 寛
藤村 作

前田 林外
藤井 乙男
努力の人生を説く西鶴
健康な西鶴

暉峻 康隆
藤田徳太郎
片岡 良一

山上 泉
片岡 良一
重友 毅

佐藤 信彦
近藤 忠義
宇田 久

小田切秀雄
奥田 瞭
瀧田 貞治

守随 憲治
松本 義一
杉浦正一郎

井本 農一
野間 光辰
鈴木 馨

野間 光辰
鈴木 馨
野間 光辰

後藤 興善
暉峻 康隆
瀧田 貞治

宮石 泉
守随 憲治
横山 重

杉浦正一郎
横山 重
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

野間 光辰
野間 光辰
野間 光辰

西鶴の芸術
西鶴の芸術
「近代国文学の研究」(抄)
「好色一代男抄釈」
「舊紙のうるし判」
「一代女の色紙外題(学界余談)」
「層」解説
「一代男の世界」
「昭和4年」
井原西鶴は平山藤五か
西鶴談義
好色二代男の趣向
西鶴と江戸
井原西鶴の江戸居住時代
「武家義理物語」(岩波文庫) はしがき
「西鶴論講 好色一代女」小引
井原西鶴の研究
西鶴と近松との用語の二三について
「元禄文学辞典」の著者へ
西鶴の浄瑠璃「層」の考
元禄の三文豪 嘘と真実の組合せ
虚実皮膜の間
「好色盛衰記」と「男色帰新座」と
同文の箇所あることに就て
好色二代男考
「校註 日本永代蔵」(抄)
西鶴讀
「三所世帯」の所在に就て
「井原西鶴集」解説
「日本永代蔵詳解」はしがき・解題
「西鶴名作集」例言・解説
題 簽
「好色四季咄」の正体
吉田半兵衛の挿絵とその遺風
「昭和5年」
井原西鶴の日本武士道論
岡田稔氏の「日本永代蔵詳解」
西鶴の「五人女」(一)
「江戸文学図録」(抄)
「世間胸算用」(改造文庫) 解説
後考一束
「校註 世間胸算用」凡例
「改訂 西鶴全集 前・後」解題
「日本永代蔵評釈」はしがき・解題
西鶴の文章 修辭学的觀察
数字の遊戯
井原西鶴の描いた女性
「小夜嵐」物の変り種
西鶴の書いた山姥長者が事
「誹諧物見草」解題と西鶴の判
「国文学書目集覽」について
風流曲三味線について
佐藤鶴吉氏の「日本永代蔵評釈」(書評)
西鶴のつかつた文字
小竹集解題
「校註 世間胸算用」書評
西鶴側面観
「五人女」に現はれたる女性の形象
鶴字法度
「国文学体系」徳川時代(抄)
西鶴の墓碑に就て
大阪 誹歌仙
西鶴本に表はれたる容儀服飾の研究(男子篇)
「俳諧師手鑑 附作者列伝」
「俳人真蹟全集」談林時代
「好色五人女詳解」はしがき・解題
俳句俳文評釈
「昭和6年」
西鶴「五人女」の独訳
西鶴の女性観
「好色五人女詳解」書評
「文壇三十年」
郷土に寄する
「リズム」
男性物の金字塔「男色大鑑」の話
「役者評判記」について
「近世芸志」
西鶴著作雑考
「西鶴五人女詳解」はしがき
浮世草子概説
好色破邪顕正
西鶴好色一代男の背景
針口の音の考
「泣輪」に就いて
井原西鶴に就いて
為水春水西鶴と近松の評
西鶴の大衆化 その註釈と翻刻について
ユダヤ的西鶴 その描く女性美の世界
「しんぢゆう」(心中)といふ語に就いて
桶分限其の他
酒林に就いて
かくれ里と羽積の伝記
西鶴の好色本と遊女評判記
西鶴記念展覧会目録
西鶴の生涯と著作
西鶴の連句
「徳川時代の芸術と社会」
西鶴小説大観
二代男のうちから
「徳川時代の町人生活」
耳と西鶴
明治以後の作家と井原西鶴
好色一代男地名考
西鶴本に現はれたる女装
西鶴の芸術的価値 「好色一代男」新論
一言による断
徳田秋声氏の挑灯文 現代語西鶴全集
「好色一代男註釈 巻上」序・はしがき
日本文学に現はれたる性欲描写
上方 西鶴記念号(第八号) 目次・口絵
西鶴好色本と遊女評判記
西鶴年譜
西鶴と近松
西鶴賞帳の中から

西鶴の芸術
西鶴の芸術
「近代国文学の研究」(抄)
「好色一代男抄釈」
「舊紙のうるし判」
「一代女の色紙外題(学界余談)」
「層」解説
「一代男の世界」
「昭和4年」
井原西鶴は平山藤五か
西鶴談義
好色二代男の趣向
西鶴と江戸
井原西鶴の江戸居住時代
「武家義理物語」(岩波文庫) はしがき
「西鶴論講 好色一代女」小引
井原西鶴の研究
西鶴と近松との用語の二三について
「元禄文学辞典」の著者へ
西鶴の浄瑠璃「層」の考
元禄の三文豪 嘘と真実の組合せ
虚実皮膜の間
「好色盛衰記」と「男色帰新座」と
同文の箇所あることに就て
好色二代男考
「校註 日本永代蔵」(抄)
西鶴讀
「三所世帯」の所在に就て
「井原西鶴集」解説
「日本永代蔵詳解」はしがき・解題
「西鶴名作集」例言・解説
題 簽
「好色四季咄」の正体
吉田半兵衛の挿絵とその遺風
「昭和5年」
井原西鶴の日本武士道論
岡田稔氏の「日本永代蔵詳解」
西鶴の「五人女」(一)
「江戸文学図録」(抄)
「世間胸算用」(改造文庫) 解説
後考一束
「校註 世間胸算用」凡例
「改訂 西鶴全集 前・後」解題
「日本永代蔵評釈」はしがき・解題
西鶴の文章 修辭学的觀察
数字の遊戯
井原西鶴の描いた女性
「小夜嵐」物の変り種
西鶴の書いた山姥長者が事
「誹諧物見草」解題と西鶴の判
「国文学書目集覽」について
風流曲三味線について
佐藤鶴吉氏の「日本永代蔵評釈」(書評)
西鶴のつかつた文字
小竹集解題
「校註 世間胸算用」書評
西鶴側面観
「五人女」に現はれたる女性の形象
鶴字法度
「国文学体系」徳川時代(抄)
西鶴の墓碑に就て
大阪 誹歌仙
西鶴本に表はれたる容儀服飾の研究(男子篇)
「俳諧師手鑑 附作者列伝」
「俳人真蹟全集」談林時代
「好色五人女詳解」はしがき・解題
俳句俳文評釈
「昭和6年」
西鶴「五人女」の独訳
西鶴の女性観
「好色五人女詳解」書評
「文壇三十年」
郷土に寄する
「リズム」
男性物の金字塔「男色大鑑」の話
「役者評判記」について
「近世芸志」
西鶴著作雑考
「西鶴五人女詳解」はしがき
浮世草子概説
好色破邪顕正
西鶴好色一代男の背景
針口の音の考
「泣輪」に就いて
井原西鶴に就いて
為水春水西鶴と近松の評
西鶴の大衆化 その註釈と翻刻について
ユダヤ的西鶴 その描く女性美の世界
「しんぢゆう」(心中)といふ語に就いて
桶分限其の他
酒林に就いて
かくれ里と羽積の伝記
西鶴の好色本と遊女評判記
西鶴記念展覧会目録
西鶴の生涯と著作
西鶴の連句
「徳川時代の芸術と社会」
西鶴小説大観
二代男のうちから
「徳川時代の町人生活」
耳と西鶴
明治以後の作家と井原西鶴
好色一代男地名考
西鶴本に現はれたる女装
西鶴の芸術的価値 「好色一代男」新論
一言による断
徳田秋声氏の挑灯文 現代語西鶴全集
「好色一代男註釈 巻上」序・はしがき
日本文学に現はれたる性欲描写
上方 西鶴記念号(第八号) 目次・口絵
西鶴好色本と遊女評判記
西鶴年譜
西鶴と近松
西鶴賞帳の中から

西鶴時代の商業帳簿
西鶴武家物について
西鶴断片「武士と金」
浄瑠璃「層」私見
太夫を教す
聯想の文学 俳諧的手法について
江戸文芸の研究法 芭蕉と比較して
健康な西鶴 断片
西鶴物の説後感
その散文精神
「俳文学考説」
西鶴序 俳書「大観」に就て
日本文学と語観
研究と創作との問題
武田麟太郎「井原西鶴」 「文芸」七月
短篇作家・西鶴
「文芸時評」西鶴と魯迅 大きな共通点
「俳諧文学」
研究と創作
西鶴武家物と其末流
西鶴及黙阿弥の描いた生来犯人(抄)
談 林
西鶴の描いた女性
「世界名著著題」
「懐視」解説
「懐久一世の物語」の作者を論ず
浮世草子の発生 初期評判記研究
「好色二代男」の成立の一考察
「大鏡」の影響について
「昭和14年」
見聞談義
近世文学と人間
西鶴自筆十二句の巻物
西鶴の読者
実篤の「井原西鶴」を読んで
「座談会」西鶴と現代小説
「書評」近藤忠義著「西鶴」
井原西鶴と数学
西鶴の散文性
近藤忠義 西鶴
西鶴論 ——「本朝桜陰比事」小考
長篇小説のモラル
「研究ノオト」最近に於ける西鶴研究の達成
近藤忠義氏「西鶴」を讀みて所感を述ぶ
「打出の小槌」
「私の読書票」情熱を喜ぶ
似たはなし(抄)
「国文学女性史」
作家と国文学 古典の現代化に關聯して
奥山の似顔
西鶴の被の色
近世文芸雑誌(一) 西鶴の挿絵について
西鶴と秋成
「市井談義」
明治文壇の西鶴への理解
「日本小説史論」
好色一代男と源氏物語
故山口剛先生の研究態度の一面
「昭和15年」
近松と西鶴
西鶴の文体 —— その俳諧的手法
西鶴の文章
西鶴の「武家もの」序論
中世文学と近世文学
元禄文学と文化文学
「研究ノオト」西鶴の作品の光面
西鶴
書物搜索 —— 雑筆三十八
「新刊目評」武者小路実篤著 井原西鶴
西鶴の誤
西鶴の町人物に於ける節儉思想
「本朝桜陰比事」論
「日本文学史」社会的に見たる 第三卷
「伊勢の鳩の目」考
片岡良一氏校訂の西鶴作品二種
—— 岩波文庫本の「文反古」と「置土産」
奥田 瞭
複製本解説「俳諧 虎溪の橋」
西鶴の説話と俳諧
西鶴二百五十年忌
織田作之助氏の近著「西鶴新論」
「西鶴新論」に就て
西鶴反古袋
西鶴の隠者性
織田作之助著「西鶴新論」
「近世文学評論」
西鶴の公治長説話
瑞巖園福禪寺
地算考
「第六感」(抄)
西鶴と「堪忍記」
—— 近世小説に關する覚え書(七・八)
「西鶴研究 第二冊」口絵
黄昏の西鶴
西鶴遺稿集をめぐる諸問題
草の種
「古今著聞集」と西鶴の説話
明治文学に於ける西鶴の復活
—— 淡島寒月をめぐるつて
西鶴と謡曲
彙報・図版解説・編輯者の詞
俳聖芭蕉の西鶴観
—— 近世日本文学のルネッサンスの性格
西鶴の「大矢数」から
「皇国文学史論」
「昭和18年」
西鶴文学に見る食物
大飯の作家
「桜千句」解説
織田作之助著「西鶴新論」
文学の伝統と西鶴
西鶴と町人精神(上)
わが文学修業
年輪算 —— 近世小説に關する覚え書(九)
古典としての西鶴
「日本の書翰体小説」
紹介・梅宇先生と西鶴
「伝統演劇瑣談」
「古典と女性」
「古典の手引き」西鶴
「西鶴研究 第三冊」口絵
西鶴と描写力
「本朝列仙伝」と「西行撰集抄」の挿画について
—— 西鶴自画の断定
一目玉針の外地に就いて
織留覚え書
編輯者の詞
「西鶴研究 第四冊」口絵
西鶴文学と時代の教養
西鶴論覚書
西鶴俳諧観上の一問題
国文学に表れたる日本精神 —— 西鶴の説話から
国民座石銘について
西鶴と瀬川菊之丞
「愚雜組」の文について
—— 挿画解説
西鶴辞世考
小説家の見た西鶴
彙報・編輯者の詞
好色一代男と謡曲の交渉
「昭和19年」
新釈諸国断
西鶴の眼と手
「日本文芸史論」
「近世文学の位相」古典による自覚と反省
「醒睡笑」の裁判説話
「国文学論究」
西鶴文学史大綱(一〇)
日本文学史における挿絵の位相
西鶴著作考
字彙三万七千一百七十五文字——西鶴雑話二
西鶴俳諧制作の境界
西鶴武家物と「業隠」
西鶴の俳諧と説話
「昭和20年」
西鶴様御安泰 —— 資料奉じて内・鮮・満・支—— 瀧田 貞治

編集方針(概要)

- 1 本集成は、井原西鶴にかかわる作家論、作品論、作品解説、書誌解題、文学史、著作年表、語彙考証、風俗考証、新刊紹介、書評、学界余瀆、座談会、随想その他の資料を収める。
2 資料収録年代は、明治・大正期補遺篇が明治二十七年(一八九四)から大正一五年(一九二六)まで、昭和前期篇が昭和二年(一九二七)から二〇年(一九四五)までである。
3 排列は発表年月順とした。ただし雑誌連載資料の後続分は、初回に連結して一括掲載とした。
4 底本は、原則として初出・初刊本とした。初出誌・紙が所在不明あるいは使用停止の場合は、全集・著作集等によった。
5 輪講および注釈・評釈書の本文は割愛し、その序・はしがき・解説等を収めた。
6 抄録資料については、章・節等の目次表記は省き、解説においてその旨補足した。
7 新聞等の新組み資料については、原則として振り仮名は省略し、また誤記・誤植等は底本のママとして、右傍に(マ)と注記した。
8 文庫本およびB5・B6判等を底本とする資料については、本書の書型(A5判)に合わせて適宜拡大・縮小を施した。
9 各巻に「解題」を付し、適宜、資料の書誌解題や内容補足あるいはその意義・評価等を略述した。
10 最終巻に「執筆索引」および「未収載資料目録」を収めた。

西鶴研究資料集成 昭和前期篇

全12巻補巻1 竹野静雄 監修・解題

- 第1回配本 全3巻補巻1 揃定価80,000円(税別)
ISBN978-4-87733-548-9(セット) 平成22年9月末日
①明治・大正篇補遺 ②昭和2年・3年
③昭和4年・5年 ④昭和6年・7年
- 第2回配本 全4巻 揃定価85,000円(税別)
ISBN978-4-87733-549-6(セット) 平成22年12月末日
⑤昭和8年・9年 ⑥昭和10年・11年
⑦昭和12年 ⑧昭和13年・14年
- 第3回配本 全5巻 揃定価95,000円(税別)
ISBN978-4-87733-550-2(セット) 平成23年3月末日
⑨昭和15年 ⑩昭和16年1月～6月
⑪昭和16年7月～12月 ⑫昭和17年
⑬昭和18年～20年、執筆者索引
- A5判/上製函入/クロス装 全巻揃定価260,000円(税別)
ISBN978-4-87733-551-9(セット) C3393

●クレス出版好評既刊書●

西鶴研究資料集成

全8巻/竹野静雄監修・解題

明治5年7月から、大正期に企画された叢書の下限(昭和3年5月)までの井原西鶴にかかわる作家論、作品論・解題、随想、文学史、著作年表、教科書、世相・風俗考証、辞典その他の資料467点を発表順に収録、最終巻に「執筆者索引」を付す。

A5判/揃定価本体126,000円 ISBN4-906330-87-8,88-6

西鶴研究

全四巻/西鶴学会編 竹野静雄解説

西鶴文学を、文学は勿論、言語・文化・風俗・経済その他あらゆる部門より究明せんとする純学術研究機関誌。西鶴に関する新資料を掲載し、西鶴に関する学会・文献・出版その他彙報の記事を網羅し、西鶴年鑑の役割も果たす。昭和17、18、23～32年。

B5判/揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-131-X

三田村鳶魚主宰 西鶴輪講『懐硯』

竹野静雄校訂・解説

六十数年前に行われた輪講の幻の速記録を活字化。草稿を翻刻し、所要の注記を付す。草稿は柴田宵曲の速記録と出席者の追記稿および木村仙秀の挿画より成る。目次を付し、各章に標題を付け加え解説を取めた。森鉄三・鈴木南陵・吉田幸一・後藤興善等出席

B6判/定価本体1,800円 ISBN4-87733-313-4

藤井乙男著作集

全9巻/竹野静雄編・解説

日本文学の全分野に亘る膨大な著作を編集復刻。

①江戸文学研究 ②江戸文学叢説 ③史話俳談 ④文学史
⑤俳諧研究 ⑥伝記・芸能 ⑦ことわざ研究 ⑧解説・解題集
⑨書評・序文・雑纂/国語便覧

A5判/揃定価本体114,000円 ISBN978-4-87733-360-7

浮世草子研究資料叢書

全七巻/倉員正江・佐伯孝弘編・解説

西鶴以降の浮世草子のうち、未だ正確な翻刻や影印のない作品を収めた「影印篇」と、今では入手しにくい論文や研究書を集めた「研究篇」より成る。江島其碩や都の錦といった、西鶴以降の浮世草子研究の更なる進展に繋がる。

A5判/揃定価本体95,000円 ISBN4-4-87733-441-3

草双紙研究資料叢書

全八巻/中村正明編・解説

草双紙研究の初期を通観できるように編集。

①②草双紙研究 ③文学史抄 ④解説・解題類
⑤雑誌論文集 ⑥翻刻・注釈集 ⑦書目
⑧草双紙・草双紙評判記

A5判/揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-325-8

秋成研究資料集成

全12巻/近衛典子監修・解説

昭和30年代頃までに刊行された上田秋成の伝記研究書、論文および『雨月物語』、『春雨物語』の注釈書、研究書とともに、小説論文、和歌・俳諧・国学・茶道その他についての論文、雑誌特輯号を収録。

A5判/揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-170-0

馬琴研究資料集成

全七巻/服部仁編・解説

戯作者馬琴の伝記とそれにつわる逸話、作品研究のほか、『曲亭遺稿』、『曲亭雜記』、馬琴の鞆旅漫録の旅の記となる『蓑笠雨談』、『鞆旅漫録』など馬琴が書き残した私的な意味合いの濃いものや今まで紹介されていない「八犬伝」関係の演劇資料を収録。

A5判/揃定価本体82,000円 ISBN978-4-87733-375-1

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版